



まず青葉が犯されていた。
天井から吊るされた鎖手錠に両手を拘束され、
後背位で激しく突かれていた。
あれで何人目だろうか。
周りにまだ数十人の男が控えており、
青葉とやりたくて仕方がないようだった。
きっと今日も彼女は気絶するまで、
犯されるのだろう。

次に、つい先ほど連れてこられた
メルJとエルニイがRスーツを
引き裂かれていた。
屈強な男たちに取り押さえられ、
抵抗むなく裸体を晒していく。
彼女たちも男たちの餌食になるのは、
そう遠くなさそうだった。
メルJは睨み、エルニイは泣き叫ぶ。
その内、犯されて
その体力もなくなるだろう。





そんな仲間たちが弄ばれる光景を見せつけられ、赤緒は男たちに体をまさぐられる。

巨乳を揉まれ、手マンをされる。

体を触る男が言った。

「助けに来た仲間もヤラれてるぜ」

「助けを期待しても無駄ってわけだ」

「もうお前らは俺らの性奴隷だ」

赤緒は歯を食いしばりながら、男たちの言葉責めを耐えるのだった。

男たちはいつものように赤緒を輪姦す。
いつもと違うのは、
周りから仲間の声が聞こえることだ。
肉打つ音の合間に聞こえる喘ぎ声だ。
それは赤緒にとって絶望的なものだが、
男たちには最高に興奮するものだった。
この乱交は男が飽きるまで終わらない。
飽きても時が経てば、また行われる。
無様に負けた赤緒たちはもう、
男たちの性奴隷なのだから――。













